

名詞・冠詞・代名詞の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール：相手が特定できるかで冠詞を選び、形式主語の it と one / it を使い分けられる

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 高校範囲の6つの判断を通します (確認は4択)

気づき AとB、同じ場面の続きの2文。1文目は a、2文目は the。書き手は何を考えて入れかえた？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	I saw a small dog in the park.
B	The dog was wearing a red scarf.

決めているのは読み手の頭の中に、それがもうあるかどうかです。Aの時点では、読み手はその犬を知りません—だから「1匹の犬がいてね」と差し出す a。Bを読むころには、読み手はもうどの犬のことか分かっている—だから the。冠詞は名詞の飾りではなく、相手に向けた合図です。だから同じ名詞でも、場面が変われば冠詞は変わります。

整理 この単元で扱う6つの判断 (相手ににとってどう見えているか)

形	作り方	表すこと	例文
a / an	a + 数えられる名詞の単数	相手ににとって初めて出てくる1つ	I saw a dog near the gate. 門の近くで犬を見かけた。
the	the + 名詞 (単数も複数も)	相手ももう特定できる	The dog had a red collar. その犬は赤い首輪をしていた。
無冠詞	複数形・数えない名詞・慣用	種類ぜんたい・目的を言う	Dogs are loyal animals. 犬は忠実な動物だ。
数えない名詞	information / advice / homework など	数えるなら a piece of	He gave me a piece of advice. 彼は助言を1つくれた。
形式主語・形式目的語	It is ... to do ... / find + it + 形容詞	長い中身を後ろへ	It is hard to change a habit. 習慣を変えるのは難しい。
one / it / that	one = 同じ種類のもう1つ / it = そのもの	何を指すかで分ける	I lost my pen, so I bought one. ペンをなくしたので買った。

冠詞は相手がもう特定できるかの合図です。まだ無いものは a、もう特定できるものは the、種類ぜんたいや数えないものは無冠詞。同じ名詞でも She broke a glass. (コップ) と made of glass (ガラス) のように、切り出せる形で見ているかで変わります。落とし穴は3つ: information / advice / homework は数えない、形式主語の it は訳さない、同じ種類のもう1つは one、そのものは it。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) He sent me plenty of useful (informations / information / advices / an advice) before the interview.
- (2) She gave me one useful piece of (advices / an advice / advice of / advice) .
- (3) (It / That / This / There) is difficult to learn a new language in a month.
- (4) The rain made (that / this / it / us) impossible for us to play outside.
- (5) I lost my umbrella yesterday, so I bought (it / a new one / new one / the new one) today.

確認の解答

(1)	information	information は数えない名詞。-s はつかず、a もつかない。数えるなら a piece of information。
(2)	advice	advice も数えない。数えたいときは a piece of advice の形を借りる。
(3)	It	うしろの to 不定詞が本当の主語。頭の it は「それ」と訳さない。
(4)	it	make + it + 形容詞 + to do。本当の目的語は to 以下。
(5)	a new one	買ったのは同じ種類のもう1つなので one。it だと同じ傘になる。

つまずき① 数えない名詞に -s や a をつける

information / advice / homework / furniture は数えません。日本語で「助言を2つ」と数えられるのに引かれて壊れます。数えるときは a piece of を借ります。

× The teacher gave us many advices about our homeworks. → ○ The teacher gave us a lot of advice about our homework.

advice も homework も数えない。many は数えるものなので a lot of / much に替える。

つまずき② 初めて出すものに the をつける

the は「読み手ももう特定できる」という合図です。まだ知らない→a/もう分かる→theを、書きながら1回ずつ判断してください。

× Yesterday I met the girl from Australia at the station. → ○ Yesterday I met a girl from Australia at the station.

その子の話は初めてなので a。駅は相手も分かる「いつもの駅」なので the でよい。同じ文でも判断は名詞ごと。

つまずき③ 種類ぜんたいの話に the をつける

「犬というものは」と種類ぜんたいを言うときは、複数形で無冠詞にするのがふつうです。the をつけると「その犬たち」に読まれます。

× The dogs are loyal, so many people keep them. → ○ Dogs are loyal, so many people keep them.

特定の犬の話ではないので無冠詞の複数形。A dog is loyal. も言えるが、かたい説明調になる。

つまずき④ 形式主語の it を「それ」と訳す

It is ... to do ... の it は、長い中身を後ろへ送る場所取りで、指しているものではありません。訳すときは to 以下を主語にして読みます。

× That is important to read the question carefully. → ○ It is important to read the question carefully.

that は「さっき言ったこと」を指す語なので、場所取りには使えない。頭に置けるのは it だけ。

授業のひとつ

導入は犬の2文だけで十分です。そのあと1分、教科書の本文から the のついた名詞を3つ選ばせてください—なぜ相手が特定できると書き手が思ったのかを言わせるだけで、冠詞が「規則」から「読み手への合図」に変わります。